

2026 年 10 月 8 日

ECC 学園高等学校 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC 学園高等学校関係者評価委員会は、2026 年 9 月 12 日に「2025 年度自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価委員会を実施しましたので、報告いたします。

学校法人 山口学園
ECC 学園高等学校
学校関係者評価委員会

開催日時:2026 年 9 月 12 日(土)

時 間:11:00~13:00

場 所:ECC 学園高等学校 大阪梅田キャンパス 504 教室

参 加 者:

- 地域(高島市)関係者 1 名 北村 一博(興亜繊維工業(株))
- 教育関係者 1 名 幸 美砂子(大津市教育支援センター)
- 保護者 2 名 中田 郁充 常塚 裕子
- 卒業生 1 名 筒井 優誠
- 学校関係者:4 名 学校長 下澤 辰次
教頭 西田雄哉
教務主幹 箕倉朋美
生徒募集責任者 小原 雅弘

1. 開会の挨拶

(下澤) 8 月末に前期考査が終了。開校 19 年目を迎えている。引き続き学校の改善のためご意見をいただければ幸い。

2. 2025 年度学校自己評価

(西田) 2025(令和 7)年度自己評価報告書に基づき、概要説明および主に評価で改善の余地がある部分(C 評価)を中心に議論、各委員様からの意見・質疑応答の形式で議事を進行した。

① 教育課程・学習指導

(西田) スクーリングについては、学習意欲を喚起するような内容とは言い難い。教務会議などで理想の教育・教授法の改善を意識している。

(幸) 様々な背景の生徒にとって意識付けに時間を要するため、例えば教材を細部まで分け、ショートステップで学んだという実感を持ってもらうなどが必要では。

(中田) 昨年と同じ問題が生じていたが改善はされたのか。

- (箕倉) 現在過渡期であり、新任教員増などがあるが昨年は旧形態のためあまり変化がないが、今年からは教務研修など増やしていき進めていく。
- (下澤) 身近な出来事について授業を行うなど、工夫はしている。
- (常塚) 座学は難いと思ったことはなかったが長いとは感じていた。2 年次で宿泊型となり、楽しいと思った。1 年次が日帰りだったので宿泊がしたいという気持ちが強かった。ただ、滋賀県に行った際、生徒人数がそれほど多くないのに対して教員が豊富に見守ってくださったのがありがたかった。

② 生徒支援・進路指導

- (西田) 特に進路指導(キャリア)についてはまだまだ改善の余地がある。今年度は卒業生 104 名のうち、24%が「その他」の進路である点を限りなく0に近づけていきたい。
- 外部組織との協力については、山口学園各専門学校との連携をしっかりとるようにしてきて、生徒の進路選択にプラスになるようにしてきた。特に進路は今までは3年生からの始動であったが、現在は1年生後期より意識付けをするように改善をしている。
- (北村) 高学歴や好成績がまだまだ重視されることはあるが、特に最近はモラトリアム的な人材が増えてきている。現場(会社)での社会人を見ている立場でも基礎的な学力はもちろん必要だが、この力が不足しているかが現状であり懸念事項である。社会では人手不足とはいえ、社会で活躍できるかは別の問題。本学に求めることは、不登校の生徒が多いとはいえ、人との関わりを通じて成長していく姿が見られるようにしていただきたい。また、高卒に必要な力(生きていく力)をつけておく必要があると考える。
- (筒井) 高1の終わりに進路のアンケートはあったが、危機感や実感もない。ましてや不登校状態だったので、どちらかと言えば社会に出たくないのも高校に進学した程度の意識だった。実際進路を考えたのが3年生だった。3年次ではゲームが好きだったのでそれを作りたいという思いが少しずつ芽生えて進路を決めることができた。
- (中田) 彼(筒井氏)と同じだと思います。その時の状況からすると、高卒は目指したいが進路を考える余裕はどの生徒さんもあまりないと思います。そのため先生方のサポートが本当に必要だと思います。
- (箕倉) コンピュータや美容系の高等部に通学している生徒は進路が決まっていると思いきや、途中で続かず辞めるという生徒も数名いて、難しい点があります。また進路を急に大学進学に変更する生徒もいて、指導上も難しい。そのため、頻繁に情報を整理したり指導を継続したりする必要性と親御さんとの連携も非常に重要だと思います。
- (常塚) 通信制高校に指定校推薦があるのは知らなかった。娘は最初は高校卒業できればいい程度だったが、できることも増えて来て進学を考えいいのかなと変化が生じてきました。全日制高校であれば高校入学後に大学ありきだったりするが、通信の生徒はそうではないと思いました。1年次は入学してすぐなのでそんなに進路を考える余裕はなかったです。
- (幸) 先生と伴走されるのは非常にいいことだと思います。ところどころで情報やアドバイスにより新たな発見やできることが増えて成長していくのがイメージできました。
- (中田) 進路や将来については、保護者も生徒も日々不安の連続です。その際に進路のことを先生とやりとりしていて齟齬があったりしたので、生徒の思っていることの記録と先生間の連携や保護者としてどの時期に何をすればいいかを伝えていただけるとありがたい。進路の情報はいただけるが、これからどの時期にどうすればいいかが見えなかったのを教えてほしい。

(筒井) (生徒が受けた進路指導を保護者とあまりやり取りしていなかった点について)今が精いっぱいであると共に、まだいいだろうという安心・油断があったと思う。

(常塚) 月間予定を早く教えていただきたい。

【学校評価アンケート結果より】

(筒井) (学校行事、特別活動について)僕個人はディズニーとバーベキューぐらいだが、参加してから友達ができるなど意味はあった。ただ当時はあまり学校に余裕がなかったのもある。

(中田) イベントの意図は。

(箕倉) 課外活動を通じて外出、他生徒とつながることをチャレンジさせたい思いがある。また、金銭感覚や電車の乗り換え、土産品購入など社会勉強にはなるが、まだまだできていない生徒もいて指導途中である。

(中田) 課外活動で現地集合などがあり、不安要素が強い生徒が参加し辛いことがあるので、その点が改善できないか(参加しやすい体制が作れないか)。

(箕倉) 特定の生徒につく先生が多くなりすぎると、全体の安全が確認できなかったり、全体運営に人員不足となったりするため、伝え方が難しいがご理解いただきたい。基本は高校生として扱いたい(自分でできるよう成長してほしいと考えている)。

(中田) 今お聞きした内容(意図)を保護者に伝える機会があったほうがいいと思います。京都では現地もオンラインもやっていますが、大阪梅田キャンパスではないので検討してほしいです。

(箕倉) 通信制高校で保護者間でつながるのはレアケースですが、どう伝えるかを検討していきたいと思います。

(常塚) 私の娘もイベントやボランティアで自力で現地に行けるようになりました。最初は心配でしたら、エラーもしながら改善し、自分で動ける力をつけていってほしいと思います。

(幸) 支援学級の自立の時間でまさにこのような経験をさせていますが、人間関係の構築を含め非常に大事なことだと考えます。

③ 学校運営

④ 環境整備・情報公開

説明のみで協議は割愛

⑤ 連携

(西田) ②の生徒支援・進路指導の保護者様からのご指摘、ご意見を受けて(高校生の場合、自分で考えることが大事であるが)、進路については生徒へ直接伝えることが基本ではあるが、保護者様との連携は必要ではと感じた。

3. 2026年度前期活動報

(箕倉) 2026年度の前期活動について説明。参加者からの質問や意見は特になし。

4. 2027年度学校案内説明

(小原) 2027年度について2026年度の変更点を中心に説明。参加者からの質問や意見は特になし。

5. 全体総括

(北村) 山口学園との学校法人化が大きく、スケールメリットもあり、生徒達が登校のきっかけ、将来のきっかけ、友人作りのきっかけができるように引き続きしていただきたい。

モデルチェンジの中で、生徒にとっては失敗のないようにしていただきたい。今日の話の中ではその点は安心している。

6. 閉会の挨拶

(下澤) 本日の評価を受けて、これらの情報(評価)を公開させていただくことになります。ただ、改善点については今後もしっかりと行ってまいります。

【今回の議事を踏まえて】

今回の学校関係者評価委員会でいただいた貴重なご意見をもとに、ECC 学園高等学校では、引き続き、以下の重点項目について継続的な改善を図り、生徒一人ひとりの成長と社会的自立を支援できる学校づくりを進めてまいります。

1. 生徒の学習意欲を高める教育活動の充実

スクーリングや授業内容については、生徒が「できた」「分かった」という達成感を積み重ねられるよう、学習内容の細分化や段階的な学習支援の充実を図る。また、身近な題材や体験的な学びを取り入れ、生徒の興味・関心に応じた授業改善と教員研修を推進し、学習意欲の向上に努める。

2. 早期からのキャリア教育と進路支援体制の強化

進路選択に対する意識形成には時間を要することから、1年次から継続的なキャリア教育を実施し、生徒一人ひとりの興味や将来像に応じた支援を行う。また、進路希望の変化にも柔軟に対応できるよう、教員間の情報共有を強化するとともに、卒業後の進路未決定者の減少を目指して支援体制の充実を図る。

3. 保護者との連携および情報発信の充実

進路指導や学校行事の目的・内容について、保護者が見通しを持って支援できるよう情報提供を充実させる。また、生徒・保護者・学校との間で情報共有を図り、進路指導の流れや学校行事の意義を分かりやすく伝えることで、安心して学校生活を送ることができる環境づくりを推進する。

以上